

第7回『呼吸と循環』賞—受賞論文発表

高橋典之論文(呼吸器領域)と波多野将論文(循環器領域)が受賞

『呼吸と循環』誌では1年間に掲載された論文を対象に、『呼吸と循環』賞(Respiration and Circulation Award)を設置しております。本賞は当該年度の『呼吸と循環』誌(1~12号)に掲載された投稿論文(綜説は除く)の中からオリジナリティのある論文を選考対象とし、原則として呼吸器領域1編、循環器領域1編に賞状と副賞10万円を授与致します。第7回となる今回、2014年(62巻)に掲載された投稿論文が対象となり編集委員による厳正な審査のもと2編の受賞が決まりました。以下に、受賞論文と受賞者、評価対象となった論文の授賞理由を発表します。

【論文名】「解剖学的残存肺容積率による肺葉切除後の予測呼吸機能評価」(研究論文)

【著者名】高橋典之(市立室蘭総合病院呼吸器外科)

【掲載号】62巻12号:1213-1219頁

【授賞理由】呼吸機能検査は、今も昔も呼吸器および循環器疾患の診療においては、必須項目であり、その結果の適切な判断は重要である。受賞論文は、肺癌の外科手術後に予想される肺機能低下を、解剖学的残存肺容積率(ARVR)を基に理論計算し、術後の呼吸機能実測値と比較することにより、理論計算の有効性を示している。特にCOPD合併肺癌の切除において有用な知見が得られている。COPD合併肺癌術後の急性期は、手術侵襲の影響により、VC・FEV₁の実測値が低下、さらに予測値以上に肺拡散能が低下し、合併症発症の誘因となりうる事が示されている。一方、慢性期は、残存肺の機能改善も一部関与してか、ないしはvolume reduction効果が出現したためか、VC・FEV₁が回復している。術後急性期・亜急性期・慢性期に呼吸機能を評価することにより、予備能力あるいは過膨張による代償作用が継続的に変化することが確認されている。



●高橋典之氏

●波多野将氏

【論文名】「肺動脈性肺高血圧症治療における診療実態調査」(研究論文)

【著者名】波多野将, 藤山直人, 中島康夫, 早田悟(東京大学医学部附属病院循環器内科, 他)

【掲載号】62巻8号:805-813頁

【授賞理由】肺動脈性肺高血圧症(PAH)の治療については、エンドセリン拮抗薬、PDE V阻害薬などの新しい治療薬が登場して大きく変化している。2012年に日本循環器学会からガイドラインが出されてはいるが、まだ広く診療現場に普及しているとはいえない。受賞論文は、PAH治療薬を最近1年間に使用した経験のある医師を対象に、血行動態を評価する検査に注目して、診療の実態調査を行った結果を報告している。血行動態を正確に把握する右心カテーテルの実施は、診断時には高頻度であるが、薬剤の効果判定では実施頻度が低い。心エコー・ドプラで代用される傾向にあるが、右心カテーテルは薬剤効果の正確な判定には必須で、特に重篤なPAHでは早期の効果判定が予後に影響を与えることから重要である。本論文は、PAHの診療実態に迫るとともに、不十分な薬剤効果の評価の実態に警鐘を鳴らしたと考えられ、「呼吸と循環」賞に相応しい研究であると評価された。